

ひらがな・カタカナ

いっぱい本作り

越谷市立千間台小学校教諭

塚原 公恵



子どもたちは、言葉に接して生活しています。一年生は読むことには慣れてきていますが、文字で表現することになると、抵抗があります。一年生の前半には、拗音や濁音があると立ち止まり、五十音表を見たり、聞きたりして書いています。そこで、子どもたちが、言葉に書き慣れ、楽しく表現できるように、学習活動の合間に「遊ぶ」こと「集める」ことをたくさん取り入れて、文字や言葉を抵抗なく書けるようにしていきたいと考えました。

1「ひらがな頭文字物語作り遊び」

まず、例をあげて説明しました。

① んつん つきよにね

② かっぱが



時間があるたびに書いていたので、だんだん枚数がたまってきました。それで、最後に一冊の本にしました。

2「カタカナいっぱい」本作り



二学期になると片仮名を学習します。子どもたちは、日常生活の中ですでに身近に接していて、自然に読んでいます。しかし、書くとなると、片仮名表を頼りに書く子がほとんどです。そこで、自然と片仮名に親しめるように、まず、新聞の折り込み広告や旅行のパンフレットなどから片仮名言

葉を集めました。集めたものは、切って画用紙に貼りしました。子どもたちは、片仮名を読みながら切ったり、貼り集めたものを読み合ったり熱心に活動していました。この学習では、片仮名を読む学習を優先したので、片仮名の書き方にはあまりこだわらず指導をしました。読めるようになってくると、書きたくなり、自分の名前を片仮名で書き始めました。片仮名を貼った画用紙も貼り合わせて、『カタカナいっぱい』本作りをしよう。』と呼びか

③ はらっぱに できて

④ んらん おどったよ

子どもたちは、丸で囲った文字に気がつき、私の名字だと知りました。興味を持ち、それぞれがリズムよく読んでいました。そのうち、自分の名字や名前でも作ってみたくなり、B5の用紙に書き始めました。作り方を制限することなく自由に書かせてみます。子どもたちは、教室や身の回りにあるものや自分の好きな食べ物・仲良しの友達の名前だけでなくさん作りしました。作るたびに、近くの友達と交換して読み合っていました。頭に付く文字から言葉がどんどん生まれてきます。楽しい文ができる、挿絵を描いてできあがりです。



けました。片仮名を学習するたびに貼り合わせて、自分の本を作るのです。



片仮名が読めるようになったので、「自分の好きな物をカタカナで書こう。」と呼びかけました。「動物」「菓子」「野菜」「車」「スポーツ選手」「サッカーのポジション」「果物」「レストラン」などがあげられ、自分で選んで、片仮名言葉を画用紙に書き、絵も添えました。この学習では、片仮名で書く言葉を指導していきます。片仮名の学習ごとに、できあがった作品を貼り合わせていきます。貼り合わせながら、学習した作品を読み直したり、付け足したりしながら活動をしています。完成した本を手にとると喜びでいっぱいです。

(二〇二二年

一年生 二学期実践

